

市町村指定文化財取材票 《表》

取材日	2023年	6月	13日	(記入者) 西野 稔	
取材参加者	石井	小西	西田	西野	宮本
	本井				
取材対象先	奈良市：興善寺の阿弥陀如来坐像				

所在地	奈良市都祁白石町2518				
所有者(取材 対応者)名	興善寺 ***住職		連絡先 0743-82-0156		
	(個人情報守秘)		PCアドレス		
取材申込	申込先・行政名など： 興善寺				
市町村 指定文化財	彫刻	1 軀	阿弥陀如来坐像＝1970(昭和45)年3月7日(旧都祁村指定)		
	建造物	棟	名称(指定年月日)		
文化財指定理由	木造で藤原時代後期の作とされるもの(都祁村史から)				

文化財の状況

	設備・対策・点検・通知方法など	記入者の感想
防火対策	火災報知器など、本堂の対策が行われている。県指定の無形民俗文化財としての「白石の双盤念仏」が本堂で証講により営まれ、多数が念仏に参加することもあり、本堂の防火対策が十分実施されている。	県指定の無形文化財を守るためにも建物の対策は十分なされていると感じた。
獣害対策	被害の有無、対策など 寺の周囲において、ムササビ、イタチ、キツネなどが出るが、本堂内部には来ていないとのこと。	記入者の感想 平日頃手入れが行き届いているようで、不審なことがあれば直ぐにみつけ、対策を打つことが可能と考えられる。
保存～継承 へ 苦労と 今後の課題 と対策	興善寺は、平安時代末期に良忍上人が唱導し阿弥陀仏を念じる庶民信仰である融通念仏宗の寺である。寺の開基は16世紀末の道音によると言われているが、記録類は焼失している。現在の本堂は江戸元禄時代に建てられたものである。本堂内部は、現在も檀家の力により修復を重ねて保存継承がなされている。最近も欄間を再現、修復した。住職によると、かつての天人の持つ楽器が紛失していたが、今回新たに修復したとのことである。地元の檀家とコミュニケーションをとることで、維持・保存継承が行われている。	

取材を終えて感じた文化財保護状況と今後の課題(修復、維持、管理、環境など)

都祁地区だけでなく、宇陀・室生地区などたくさんのところの檀家との密な関係により、興善寺という寺とその文化財が守られてきたと感じた。住職も檀家とのコミュニケーションが大切とおっしゃっており、人と人のつながりが文化財を守っていることがよくわかる。ただ、地域としても段々若い人が少なくなっている今、他のところと同様に将来的な文化財の維持管理が困難になるかもしれない不安を感じる。

市町村指定文化財取材票<裏>

取材日	2023年	6月	13日	(記入者) 西野 稔	
取材参加者	石井	小西	西田	西野	宮本
	本井				
取材対象先	奈良市：興善寺の阿弥陀如来坐像				

<<写真撮影許可済>>

文化財指定名 阿弥陀如来坐像

文化財 (正面写真)	文化財 (角度を変えて、写真)
 <p>ご本尊は元々掛け軸であったため厨子が薄い。このため阿弥陀如来安置時に奥を出した。</p>	
文化財 (安置全体写真)	修復された欄間の天人と楽器

	 <p>本堂天井の感知器</p>
文化財の由緒などを記入	 <p>修復された欄間の天人と楽器</p>

文化財の由緒などを記入	所有社寺や地域(廃寺等)の歴史や特徴を記入
<p>阿弥陀如来は、西方の極楽浄土にいとされ、平安時代後期の浄土信仰の広まりにつれて多く作られるようになった。左手を下げ、右手は肘を曲げて、上品下生印を結んだ、いわゆる来迎印の阿弥陀像で蓮華座上に結跏趺坐する。木造で藤原時代後期の作と推定されるものである。(都祁村史より)</p>	<p>興善寺は奈良から伊勢へ向かう伊勢街道沿いに位置する融通念仏宗の寺院である。興善寺では、奈良県指定無形民俗文化財の「白石の双盤念仏」が行われる。檀家有志による鉦講の人たちによって営まれ、直径50cmほどの大きな双盤鉦を叩きながら念仏を唱えるものである。寺で行う盂蘭盆会(8/15)、地藏会式(8/24)、十夜(11/10)に双盤念仏を行う。(県の文化財パンフレット「白石の双盤念仏」より)</p>